

検査項目の案内(基準値と説明)

済生会兵庫県病院検査科 令和4年10月改訂

	検査項目	名称	基準値(成人男性/成人女性)	単位	説明
蛋白	TP	総蛋白	6.6~8.1	g/dL	血液中の蛋白質の総量を表し、栄養状態や肝臓・腎臓の機能をみています。
	ALB	アルブミン	4.1~5.1	g/dL	肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能の低下で低くなります。
	CRP	C反応性蛋白	0.14未満	mg/dL	体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。炎症のほか心筋梗塞などで高くなります。
肝機能	AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	13~30	U/L	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。
	ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ	10~42/7~23	U/L	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。肝臓細胞の障害を敏感に反映します。
	LD	乳酸デヒドロゲナーゼ	124~222	U/L	広く体内各臓器に存在する酵素で、特に肝臓や血液の病気で高くなります。
	γ-GT	ガンマグルトamilトランスフェラーゼ	13~64/9~32	U/L	肝臓や胆道の病気で異常を示し、アルコール性肝障害でも高くなります。
	ALP	アルカリホスファターゼ	38~113	U/L	肝臓・胆道や骨の状態をみています。成長期にある小児は成人よりも高い値を示します。
	ChE	コリンエステラーゼ	240~486/201~421	U/L	肝臓の病気で低くなり、有機リン剤による中毒でも低くなります。脂肪肝では高くなります。
	T-Bil	総ビリルビン	0.4~1.5	mg/dL	胆汁色素で、主に肝臓・胆道の障害で高くなり、黄疸の指標になります。
膵臓	AMY	アミラーゼ	44~132	U/L	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の病気で高くなります。
心機能	CK	クレアチンキナーゼ	59~248/41~153	U/L	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。心筋梗塞などの心臓病や筋肉の病気で高くなります。
	BNP	脳性ナトリウム利尿ペプチド	18.4以下	pg/mL	心臓の状態を判断するための検査で、主に心不全で高くなります。
脂質	T-Cho	総コレステロール	142~248	mg/dL	体の脂肪成分の一つで、血管を強化する物質として重要です。多すぎると動脈硬化症の原因となります。
	HDL-C	HDLコレステロール(善玉)	38~90/48~103	mg/dL	善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます。
	LDL-C	LDLコレステロール(悪玉)	65~163	mg/dL	悪玉コレステロールと呼ばれ、増加するとコレステロールが血管壁に溜まり、動脈硬化が促進します。
	TG	トリグリセライド(中性脂肪)	40~234/30~117	mg/dL	体の脂肪成分の一つで、多すぎると動脈硬化の原因となります。食後に高くなります。
腎機能	BUN	血中尿素窒素	8~20	mg/dL	蛋白質が分解されたもので、腎臓の機能が低下すると高くなります。
	CRE	クレアチニン	0.65~1.07/0.46~0.79	mg/dL	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてきた物質で腎臓から排泄されます。腎臓の機能をみています。
	UA	尿酸	3.7~7.8/2.6~5.5	mg/dL	プリン体が分解してできた老廃物で、腎臓から排泄されます。痛風や腎臓の機能障害の指標になります。
電解質	Na,K,Cl	ナトリウム、カリウム、クロール	138~145,3.6~4.8,101~108	mmol/L	体内の水分調節の状態をみます。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで高くなったり、低くなったりします。
	Ca	カルシウム	8.8~10.1	mg/dL	骨の病気やさまざまな内分泌の病気で変動します。また、心臓や血管の働きにも重要な役割を果たします。
	Mg	マグネシウム	1.8~2.4	mg/dL	酵素の働きやエネルギー代謝に重要です。カルシウムとともに心臓や血管の働きをつかさどる大切な物質です。
	IP	無機リン	2.7~4.6	mg/dL	骨に存在しカルシウムと結合しています。内分泌や骨の代謝異常の有無をカルシウムと組みあわせることで病気の診断に役立ちます。

	検査項目	名称	基準値(成人男性/成人女性)		説明
鉄分	Fe	血清鉄	40~188	$\mu\text{g/dL}$	酸素を運ぶヘモグロビンの構成物質の一つです。出血や鉄欠乏性貧血で低くなり、肝臓に障害が生じた時は高くなります。
	UIBC	不飽和鉄結合能	111~255/137~325	$\mu\text{g/dL}$	鉄を結合できる余力です。血清鉄の測定とあわせて血液疾患、肝臓疾患、腫瘍性疾患、炎症などの診断、治療方針決定に有用です。
	Feritin	フェリチン	50~200/12~60	ng/mL	鉄を貯蔵する蛋白で、鉄欠乏性貧血などの指標となります。また、炎症反応や悪性腫瘍などの腫瘍マーカーとしても使われます。
糖代謝	GLU	グルコース(血糖)	73~109	mg/dL	血液中のブドウ糖濃度で大切な栄養素です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けるので空腹時に検査をします。
	HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.9~6.0	%	過去1~2カ月の平均的な血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値の管理に有用です。
血球数	WBC	白血球数	3.3~8.6	$\times 1000/\mu\text{L}$	血液中の血球成分の一つで、細菌や異物などを排除する生体防御に関与します。炎症性疾患や血液疾患などで増減します。
	RBC	赤血球数	435~555/386~492	$\times 10000/\mu\text{L}$	血液中の血球成分の一つで、全身に酸素を運搬する働きがあります。様々な貧血症で減少し、多血症では増加します。
	Hb	ヘモグロビン濃度	13.7~16.8/11.6~14.8	g/dL	赤血球内のたんぱく質です。酸素を結びつける能力があり、貧血で減少し、多血症では増加します。
	PLT	血小板数	15.8~34.8	$\times 10000/\mu\text{L}$	血液中の血球成分の一つで、出血を止める働きがあります。様々な血液疾患で変動します。
凝固検査	PT	プロトロンビン時間	10.5~12.5	秒	血液の凝固異常を調べる検査です。ワーファリン治療時に薬の量を調節するために測定します。
	APTT	活性化部分トロンボプラスチン時間	28~40	秒	血液の凝固異常を調べる検査です。血友病など出血性の病気の診断やヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。
	Fib	フィブリノゲン	170~377	mg/dL	止血に関与する血液凝固因子の一つで、血液凝固の仕組みに異常をきたす病気などで低くなります。高い場合は炎症の指標となります。
尿検査	比重	比重	1.006~1.030		腎臓の尿の濃縮力を調べる検査です。腎臓疾患や水分摂取、発汗、運動などで変動します。
	pH	ペーハー	4.6~8.0		尿の酸性度を調べる検査です。通常は中性~弱酸性ですが、様々な要因で変動します。
	尿蛋白	尿蛋白	(-)		尿中の蛋白を調べる検査です。腎疾患などで病的に検出される場合のほか、妊娠や運動後などで一過性に検出されることもあります。
	糖	尿糖	(-)		尿中の糖を調べる検査です。糖尿病や腎疾患などで検出されます。
	ケトン体	ケトン体	(-)		糖代謝よりも脂肪代謝が亢進すると尿中に検出されます。糖尿病、高熱、下痢、嘔吐などで陽性となります。
	ビリルビン	尿中ビリルビン	(-)		尿中のビリルビンを調べる検査です。肝機能障害や胆道閉塞などで陽性となります。
	潜血	潜血	(-)		尿中の出血の有無を調べる検査です。結石や炎症などがあると陽性となります。
	亜硝酸塩	亜硝酸塩	(-)		通常、尿中には検出されません。陽性の場合、細菌性の尿路感染症が疑われます。
	ウロビリノーゲン	ウロビリノーゲン	(±)		ビリルビンが腸で代謝され、尿中に排出されたものです。肝機能障害などで増加し、胆道閉塞では陰性化します。
白血球反応	白血球反応	(-)		尿中の白血球を調べる検査です。尿路感染症などで陽性となります。	